



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

11日

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて欧米株安が進み、リスク回避目的のドル買いが進んだ。ドル円は一時104.40円と昨年12月10日以来となる約1カ月ぶりの高値を付けた。

12日

ドル円はしばらく104円台前半で底堅く推移していたが、好調な米10年債入札をきっかけに米長期金利が低下すると、引けにかけて103.72円まで下押しした。

13日

ドル円はアジア時間に103.53円まで下落したものの、その後は対ユーロ中心にドル買いが進んだ流れに沿って104.00円まで下値を切り上げた。もっとも、米連邦準備理事会（FRB）の高官からテーパリングについて否定的な見解が伝わったこともあり、買いの勢いも次第に弱まった。

14日

ドル円は米CNNが「バイデン次期米大統領が発表する追加経済対策が2兆ドル規模になる見込み」と報じたことをきっかけに買いが進み、一時104.20円まで上昇。ただ、その後は低調な米労働指標などを受けて伸び悩み展開に。パウエルFRB議長のハト派的な発言が伝わると、全般ドル売りが活発化し、一時103.57円まで下値を広げた。

15日

ドル円は1日を通して値幅が狭かったものの、NY時間には米国株安を背景にリスク・オフのドル買いが入り、一時103.91円まで値を上げた。なお、アジア時間にバイデン次期米大統領は総額1.9兆ドル規模の経済対策を発表したが、事前に伝わっていた報道通りの内容だったため、相場への影響は限られた。

総括

先週のドル円は方向感を欠いた動きとなった。週明け11日にはリスク回避目的のドル買いが進んだことで104.40円まで上昇する場面があったものの、翌12日には米長期金利の低下を手掛かりにした売りに押されて失速。13日のアジア時間には一時103.53円まで反落した。もっとも、その後はバイデン次期米大統領の追加経済対策が予想を上回る規模になるとの報道などを手掛かりに104円台を回復した。一方で、パウエルFRB議長のハト派的な発言が伝わると再び103円台後半まで伸び悩み。週を通じて104.00円を挟んだ狭いレンジ内での一進一退の動きとなった。

先週の注目された経済指標結果

| 日付 | 時刻 | 曜 | 通貨 | 指標名 | 比 | 月 | 前回値 | 予想値 | 結果 |
|-----|-------|---|-----|-------------|-----|-----|-------|-------|-------|
| 13日 | 22:30 | 水 | USD | CPI | 前月比 | 12月 | 0.2% | 0.4% | 0.4% |
| 13日 | 28:00 | 水 | USD | ページブック | * | * | * | * | * |
| 14日 | 26:30 | 木 | USD | パウエルFRB議長発言 | * | * | * | * | * |
| 15日 | 16:00 | 金 | GBP | GDP | 前月比 | 11月 | 0.4% | -5.7% | -2.6% |
| 15日 | 22:30 | 金 | USD | 小売売上高 | 前月比 | 12月 | -1.1% | 0.0% | -0.7% |
| 15日 | 22:30 | 金 | USD | PPI | 前月比 | 12月 | 0.1% | 0.4% | 0.3% |
| 15日 | 23:15 | 金 | USD | 鉱工業生産 | 前月比 | 12月 | 0.4% | 0.5% | 1.6% |

一言コメント・・・欧州各国では新型コロナ感染拡大抑制に向けたロックダウン(都市封鎖)の延長や制限措置の強化が相次いで実施され、景気への悪影響が懸念されました。また、イタリアのレンツィ元首相が連立与党からの離脱を示唆したことやオランダ内閣総辞職の可能性が高まったことで欧州の政治不安が高まりユーロが軟調に推移しました。

先週の注目された要人発言

11日09:01 ペロシ米下院議長「トランプ米大統領の弾劾訴追状案を下院に提出する」
 11日23:29 テンレイロMPC委員「マイナス金利の実現可能性に関する作業は依然として進行中」「マイナス金利検討は遅すぎではない」
 12日18:22 ベイリーBOE総裁「マイナス金利の問題点が多い」「マイナス金利が現実的かどうかについて多くのことに取り組んでいる」「金利の見通しは生産性の向上に左右される」
 13日03:07 ジョージ米カンザスシティ連銀総裁「継続的な景気回復に対して概して楽観的」「緩和的な金融政策スタンスは適切」「金融スタンス変更のタイミングを推測するには早過ぎる」
 13日18:18 ラガルドECB総裁「財政および金融政策のサポートが引き続き必要」「為替水準を注視しているが、ターゲットはない」「為替が物価に与える影響に極めて注意を払っている」
 13日23:45 ブラード米セントルイス連銀総裁「米国債は依然として安全な資産、ドルは準備通貨である」「テーパリングの時期を決めたくない」
 14日03:22 ブレイナードFRB理事「現在の資産購入ペースは相当の期間、適切であると予想」「必要なら債券購入ペースを引き上げる用意ある」
 15日02:44 パウエルFRB議長「厄介なインフレや不均衡がない限り、利上げしない」「最大雇用にはほど遠い」「利上げ時期は全く近くない」「今は出口戦略について話す時期ではない」

一言コメント・・・FRBの一部高官から債券購入のテーパリング期待を鎮静化させるような発言が伝わったことで米長期金利の上昇が一服しました。パウエルFRB議長の「厄介なインフレや不均衡がない限り、利上げしない」「利上げのタイミングは全然近くない」とのハト派的な発言も金利低下につながりました。

今週の経済指標

| 日付 | 時刻 | 曜 | 通貨 | 指標名 | 比 | 月 | 前回値 | 改定値 | 予想値 |
|-----|-------|---|-----|-------------|-----|-----|--------|-----|-------|
| 20日 | 19:00 | 水 | EUR | HICP改定値 | 前年比 | 12月 | -0.3% | | -0.3% |
| 20日 | 24:00 | 水 | CAD | BOC政策金利 | * | * | 0.25% | | 0.25% |
| 21日 | 未定 | 木 | JPY | BOJ政策金利 | * | * | -0.10% | | |
| 21日 | 21:45 | 木 | EUR | ECB政策金利 | * | * | 0.00% | | 0.00% |
| 21日 | 22:30 | 木 | EUR | ラガルドECB総裁会見 | * | * | * | * | * |
| 21日 | 未定 | 木 | ZAR | SARB政策金利 | * | * | 3.50% | | 3.50% |
| 22日 | 24:00 | 金 | USD | 中古住宅販売件数 | 前月比 | 12月 | -2.5% | | -2.1% |

今週の注目は・・・ECB定例理事会

週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで
ご確認ください

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - よろずのつぶやき

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。